

一〇二二年七月九日

御手洗を溢るる零苔の花 ぽんこ
手を繋ぐ夫は片陰外れたり よう子
立葵沖の波見る漁夫の妻 素秀
白日傘六角形の影と行く よし子
大岩を神と崇める木下闇 ぽんこ
亡夫の若き日を知る曝書かな むべ
園児等の花丸の書の墨涼し かかし
味見せよと伽羅蕗を手の窪に 愛正
園児嬉々お玉杓子に足生えて こすもす
紹の羽織脱ぐや佳境の講釈師 よう子
冬瓜煮快気祝ひの鶴の碗 なつき
無農薬なる梅そばかす美人なり なつき
青々と清しき茅の輪くぐりけり はく子